

宇宙産業振興小委員会におけるこれまでの議論

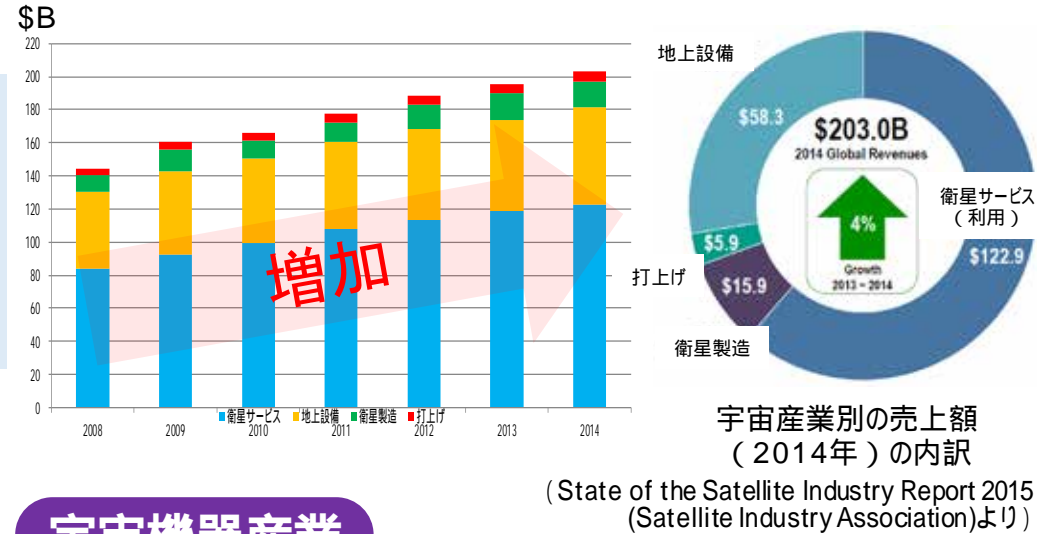
平成28年11月

内閣府 宇宙開発戦略推進事務局

宇宙産業の現状・課題

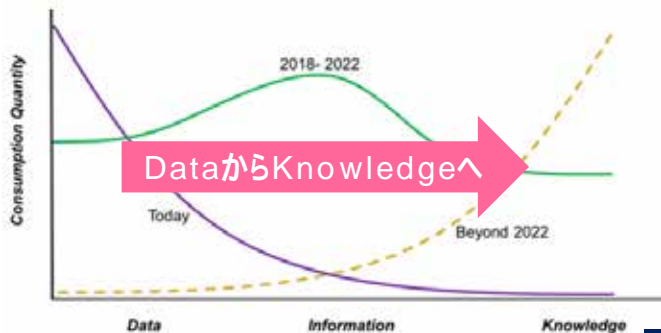
宇宙産業の拡大

世界の宇宙産業は毎年増加傾向。
宇宙利用産業の規模が大きく、今後は特に、宇宙以外のデータと組み合わせたビジネスや、通信、測位、リモートセンシング以外のビジネスの創出も期待される。また、他産業の発展にも寄与。



宇宙利用産業

我が国では一次データを中心としたビジネスが中心。
世界的には小型衛星によるコンステレーション等により、衛星データの質・量が向上し、得られたビッグデータをAI等により解析し、付加価値を加えるビジネスへと変化。

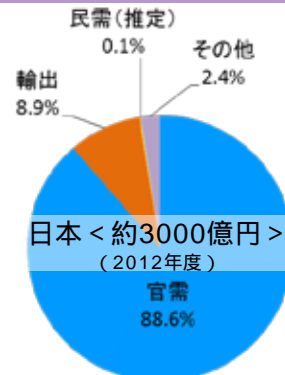


商業施設の駐車場の通行量から、顧客の嗜好・習慣を分析

(Orbital Insight HPより)

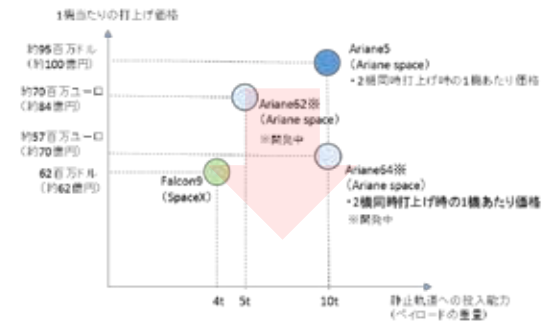
宇宙機器産業

我が国では国内政府需要が大半で、民需や海外市場の取り込みは限定的。
欧米ではロケット打ち上げ事業への民間企業の参入による大幅なコスト削減や、小型・超小型衛星の製造革新が進むなど、競争力強化に向けた動きが活発化。



宇宙機器産業 売上構成

(平成27年度宇宙産業データブック(一般社団法人航空宇宙工業会)を基に内閣府作成)



SpaceXの参入により価格競争が激化

(COMMERCIAL GEOINT STRATEGY(NGA)より)
GEOspatial INTelligence : 地理空間情報

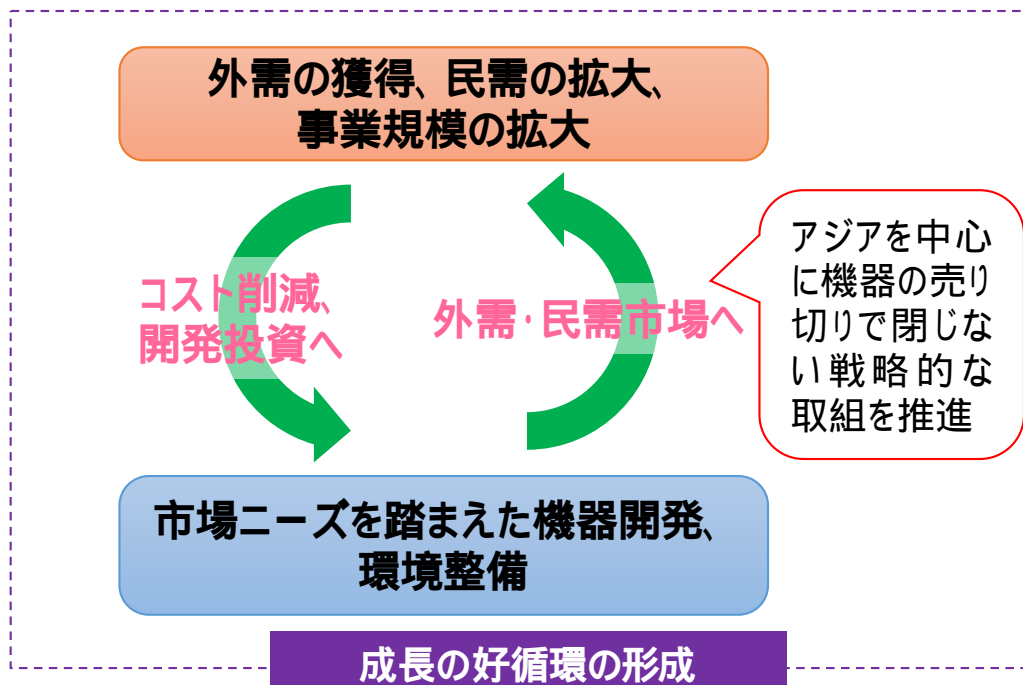
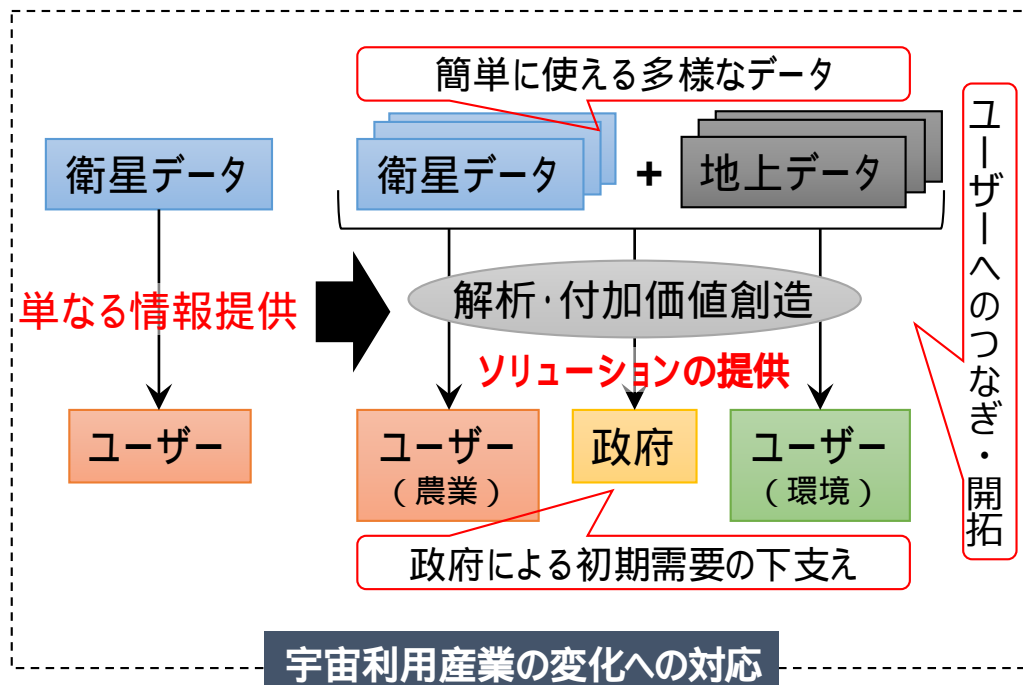
宇宙産業の拡大に向けて

宇宙利用産業

宇宙利用産業の中心が付加価値を提供するソリューションビジネスに変化する中、我が国においても必要な環境を整備し、事業創出を促進。

宇宙機器産業

市場ニーズ（コスト、品質、納期等）を踏まえ競争力を強化するとともに、アジアを中心に戦略的に海外展開。需要が見込まれる小型衛星打上げ事業も推進。



ベンチャー・異分野からの新規参入

新規参入の促進

ベンチャー企業や異分野からの新規参入を促すため、人材育成・流動性の確保、資金面での支援、新たなアイデアの発掘支援、成功事例の創出・拡大などが重要。